

熊本商工会議所・第36回 経営動向調査

平成17年6月期 結果報告書

業況DI マイナス30.4 対前期比 +3.3ポイントで僅かに改善

～小売業が改善、建設業(土木)は悪化～

調査結果のポイント

全業種の業況DI値はマイナス30.4で、前回(平成17年3月期)調査と比較すると、プラス3.3ポイントとなり僅かに改善となった。

前回(3月期)調査から業況が好転したのは4業種で、小売業が37.3(プラス15.9ポイント)、卸売業が37.5(プラス8.7ポイント)、製造業が40.6(プラス7.7ポイント)、建設業(職別・設備)が11.1(プラス3.9ポイント)となった。

一方、悪化したのは3業種で、建設業(土木)16.7(マイナス33.8)、サービス業が20.8(マイナス6.2ポイント)、飲食業が42.9(マイナス4.4ポイント)となった。

今回の調査では、小売業、建設業(土木)を除き、他の業種は比較的小幅な動きであった。特徴としては前回調査で悪化の業種が改善に転じた一方、前回、改善傾向にあった業種が今回は悪化する動きが見られた。景気動向としては、一進一退の足踏み状態が推測される結果となった。

また、来期見通しについては、製造業を除く他の業種において好転の期待感が大きかった。

調査対象期間 平成17年4月～6月(平成17年度第1四半期)

調査期間 平成17年6月20日(月)～24日(金)

調査対象数 熊本市内 小規模企業 291事業所

回答数 225事業所(回答率77.3%)

(小規模企業とは、商業・サービス業では従業員5名以下、それ以外の業種は20名以下の企業)

《業種別回答状況》

対象業種	対象企業数	回答企業数	回答率(%)
製造業	37	32	86.5
建設業(土木)	21	15	71.4
建設業(職別・設備)	34	27	79.4
卸売業	35	24	68.6
小売業	71	59	83.1
飲食業	23	14	60.9
サービス業	70	54	77.1
合計	291	225	77.3

DI値(業況判断指数)について

DI値は、売上高、受注・販売単価、業況などの各項目についての、判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気や弱気など「景気の実感」をそのまま表わすものである。

DI = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)

対前期比を主とした前回(3月期)調査と比較した概況

全業種

製造原価・仕入(材料等)単価がやや改善し、販売(受注)・客単価も僅かに改善。売上高が改善し、採算(営業利益)も、やや改善となった。全体の業況は僅かに改善した。

業況D Iの変化 17年3月期 33.7 17年6月期 30.4

製造業

製造原価がやや悪化し、販売(受注)単価も悪化となった。売上高が横ばいのなかで、採算(営業利益)は、悪化した。全体の業況は、低調ながらもやや改善となった。

業況D Iの変化 17年3月期 48.3 17年6月期 40.6

建設業(土木)

仕入単価、受注単価ともにやや改善。しかし売上高は大きく悪化し、採算(営業利益)も悪化した。全体の業況は、大きく悪化となった。

業況D Iの変化 17年3月期 +7.1 17年6月期 26.7

建設業(職別・設備)

仕入単価が大きく改善した中で、受注単価はほぼ横ばい。売上高も横ばいながら、採算(営業利益)はやや改善した。全体の業況は、やや改善となった。

業況D Iの変化 17年3月期 15.0 17年6月期 11.1

卸売業

仕入単価、売上単価ともに大きく改善。売上高が大きく改善し、採算(営業利益)も改善となった。全体の業況は、やや改善となった。

業況D Iの変化 17年3月期 46.2 17年6月期 37.5

小売業

仕入単価がやや改善し、客単価も改善。売上高が大きく改善し、採算(営業利益)も大きく改善となった。全体の業況は、改善した。

業況D Iの変化 17年3月期 53.2 17年6月期 37.3

飲食業

仕入単価は改善したが、客単価はやや悪化となった。売上高が大きく改善したものの、採算(営業利益)はほぼ横ばいであった。全体の業況は、僅かに悪化となった。

業況D Iの変化 17年3月期 38.5 17年6月期 42.9

サービス業

仕入単価(材料等)がやや悪化し、客単価は横ばい。売上高が悪化し、採算(営業利益)も悪化となった。全体の業況は、やや悪化した。

業況D Iの変化 17年3月期 14.6 17年6月期 20.8

業種別の業況一覧

上段 = 対前期比
下段 = 対前年同期比

業 種	今 回 調 査 (17年6月期)	前 回 調 査 (17年3月期)	今回調査との 比較ポイント
全 業 種	30.4	33.7	+ 3.3
	28.3	34.7	+ 6.4
製 造 業	40.6	48.3	+ 7.7
	43.8	53.6	+ 9.9
建 設 業 (土 木)	26.7	+ 7.1	33.8
	13.3	± 0.0	13.3
建 設 業 (職別・設備)	11.1	15.0	+ 3.9
	± 0.0	20.0	+ 20.0
卸 売 業	37.5	46.2	+ 8.7
	33.3	53.8	+ 20.5
小 売 業	37.3	53.2	+ 15.9
	42.4	48.9	+ 6.5
飲 食 業	42.9	38.5	4.4
	28.6	38.5	+ 9.9
サービ業	20.8	14.6	6.2
	19.2	11.9	7.3

来期(17年7～9月期)の業況見通し

全業種における、来期(17年7～9月期)の業況見通しDI値は14.7で、今期(17年4～6月)の業況DI値30.4と比較してプラス15.7ポイントとなり、全体として好転の期待感が大きい業況見通しとなった。

来期の業況見通しDI値と今期の業況DI値を比較してプラスとなった業種は、製造業を除き6業種で卸売業、サービス業、飲食業、小売業、建設業(土木)、建設業(職別・設備)であった。なかでも卸売業は+37.5ポイントと期待感が大きかった。

業種別の来期における業況見通しは、次の一覧のとおり。

業種	来期の業況見込み (17年7～9月期)	今期の業況 (17年4～6月期)	今回調査との比較
全業種	14.7	30.4	+15.7
製造業	47.8	40.6	7.2
建設業 (土木)	16.7	26.7	+10.0
建設業 (職別・設備)	4.3	11.1	+6.8
卸売業	±0.0	37.5	+37.5
小売業	24.5	37.3	+12.8
飲食業	23.1	42.9	+19.8
サービス業	+4.4	20.8	+25.2